

救命梯子(ナワバンゴ)のススメ

～海中転落、その時あなたは～



第四管区海上保安本部警備救難部救難課

作成：25年3月22日

なぜ「救命梯子（ナワバシゴ）」が必要？

みなさん、小型船（漁船・プレジャーボート・作業船等）に乗船中に万が一、**海中転落（海へ落ちてしまうこと）**してしまった時の事を想像してみてください。その場合、どうしたら船の上に戻る事ができるでしょうか？

海に落ちてしまったら、**服は海水をたっぷり吸い込んで重くなり**、船の縁に掴まることが出来たとしても、腕力に自信のある人でも簡単に這い上げられるものではありません。

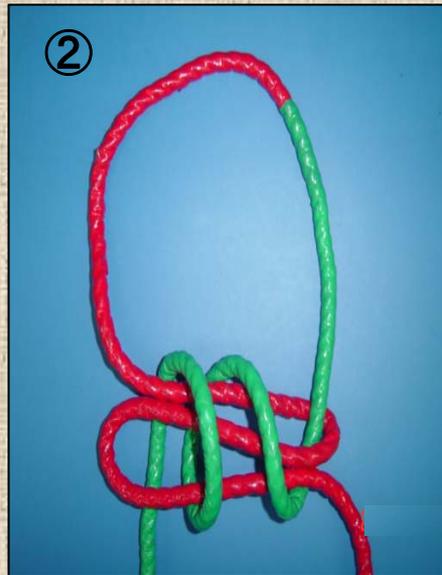
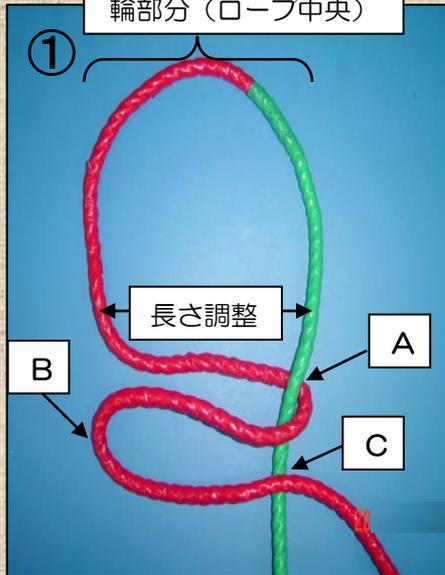
当管区では、平成23年10月、漁船に一人で乗船していた60代の男性が足を滑らせて海中転落してしまい、船の上には這い上げられずに力尽き、**船と離ればなれで漂流**してしまい、発見が遅れてしまったという事故も発生しています。

そこで、「**救命梯子（ナワバシゴ）**」があれば、もしもの時に船上に上げられるのでは、と考え、これを紹介することにしました。



「救命梯子（ナワバシゴ）」を作ってみましょう。

輪部分（ロープ中央）



① 水面上に垂らす部分の輪部分から作っていきます。

A：赤ロープを緑ロープの下から通す。

B：左で折り返す。

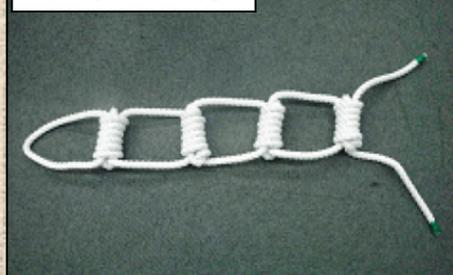
C：緑ロープの上に置く。（その際、輪の大きさ及び梯子の握り部分の長さを調整する。）

② 緑ロープを赤ロープで折り返した部分に、手前から奥へ巻き付けていきます。

③ 握り部分のエンドを赤ロープの折り返し部分の中に通し、緑ロープと赤ロープを強く引き、輪部分の完成。

④ 順次、はしごの握り部分を繰り返して作っていきます。

縄梯子完成状況



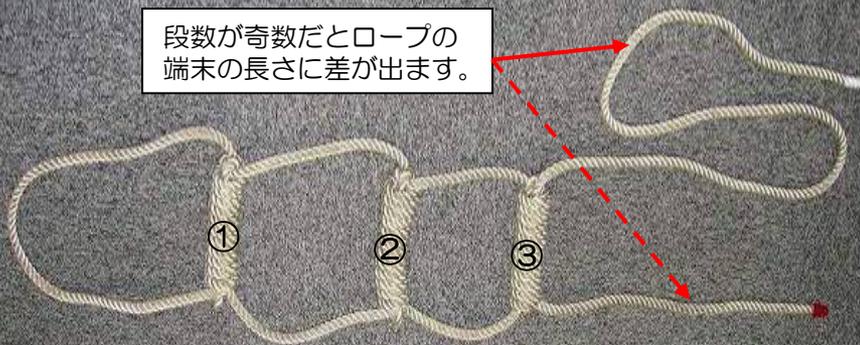
慣れれば、誰でも簡単に作れますよ！！



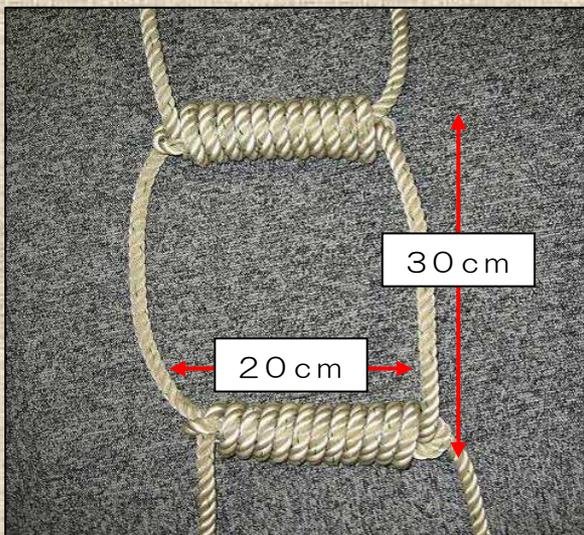
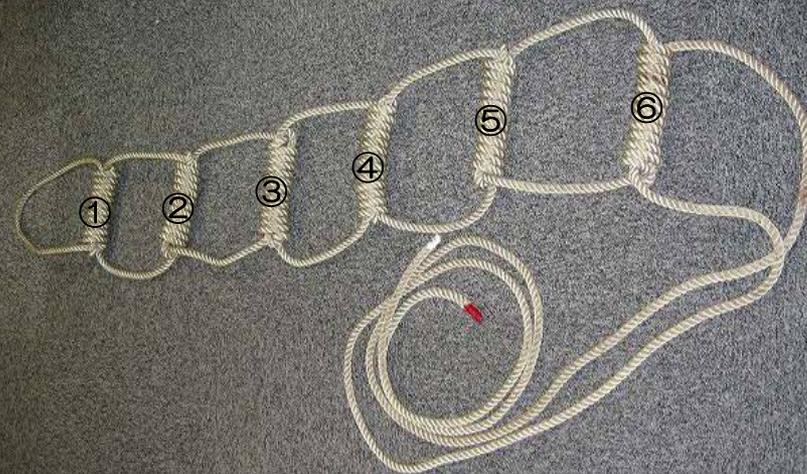
「救命梯子（ナワバシゴ）」を作ってみました。

10mロープにて作成

段数が奇数だとロープの
端末の長さに差が出ます。



20mロープにて作成



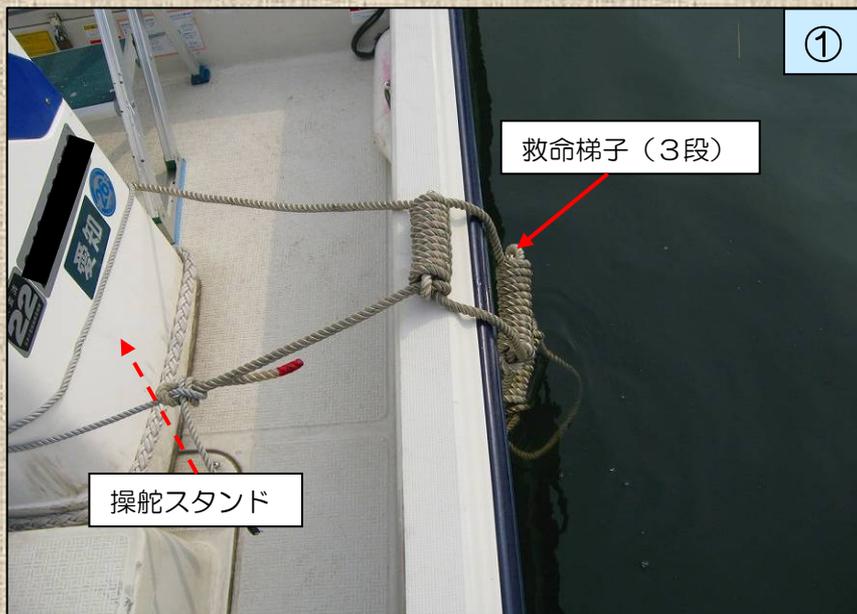
ロープは径12mm、長さは10mと20mのロープ2本を使用して実際にどれくらいの救命梯子が出来るか試作してみました。結果は、

10m **段数3段**（段の幅約20cm、段の高さ約30cm）、
端末の長さ約0.5mと1.5m
（所要時間：約30分）

20m **段数6段**（段の幅約20cm、段の高さ約30cm）、
端末の長さ2本共に約2m
（所要時間：約1時間10分）

となりました。試作結果から、今回使用した径12mmのロープでは、**1段あたり、2.5~3m**の長さが必要となりました。

「救命梯子（ナワバシゴ）」を使ってみました。（ベカ船：小型和船）



①救命梯子の取り付け

操舵スタンドにロープを回して取り付けました。3段梯子を使用しています。（この程度の大きさの船だと3段あれば十分に海面まで届きます。）

②救命梯子に掴まった状況

梯子に掴まり、足も掛かっている状態です。船の外板（壁面）部分に取り付けるとつま先や膝が外板に当たって、姿勢が安定し、体の保持が容易となります。

③救命梯子を登り終えた状況

梯子を登って船上に上がる瞬間です。画像の様に操縦ハンドル等の持ち手部分があると楽に上がれます。

「救命梯子（ナワバシゴ）」を使ってみました。（プレジャーボート）



①救命梯子に掴まった状況（船尾側）

梯子に掴まり、足も掛かっている状態です。船の外（壁面）部分に取り付けるとつま先や膝が外板に当たって姿勢が安定し、体の保持が容易となります。

②救命梯子を登り終えた状況（船尾側）

梯子を登って船上に上がる瞬間です。画像の様にクロスビットやハンドレール等の持ち手があると楽に上がれます。

③救命梯子に苦戦している状況（船首側）

船首部分に取り付けた梯子を登っている状態ですが、外板と梯子の間に隙間があることにより、縄梯子が振れ回り、重心が足側にあるため、体が傾斜し、姿勢が安定しませんでした。

「救命梯子（ナワバシゴ）」を使ってみました。（小型鋼船編）



つま先が外板に当たって姿勢が安定しています。



登りだすと姿勢が安定しました。

登り開始時



フェアリーダーや
スタクション等の持ち手

①救命梯子を登っている状況（船尾側）

梯子に足を掛けて登っている状態です。船の外板（壁面）部分に取り付けるとつま先や膝が外板に当たって姿勢が安定し、体の保持が容易となります。

②救命梯子を登り終えた状況（船尾側）

梯子を登って船上に上がる瞬間です。画像の様にフェアリーダー（ロープ通し）やスタクション等の持ち手があると楽に上がれます。

③救命梯子を登っている状況（船首側）

船首部分に取り付けた梯子（6段梯子使用）を登っている状態です。登り開始時は、外板と梯子の間に隙間があることにより、梯子が振れ回ってしまい、実際に梯子に足が掛かって登りだすまで姿勢が安定しませんでした。

「救命梯子（ナワバシゴ）」使用に関するアドバイス（まとめ）

◎救命梯子の作成について

救命梯子を作成するには、**ロープ径8～12mm、長さ10～20m程度のロープが最適**です。まず、船の大きさで必要な段数と使用するロープの長さ（使用ロープにもよりますが1段あたり2～3m程度必要）を決めて、救命梯子を作成してみましょう。

◎救命梯子の取り付け場所について

救命梯子を船首部分に取り付けると、外板（壁面）と梯子の間に隙間ができることにより、梯子が振れ回り、姿勢が安定しません。つま先や膝が外板に当たることにより、**姿勢が安定し、体の保持が比較的容易**である、**船体中央～船尾部分**への取り付けをおすすめします。また、梯子から船上に上がる際、上方に操縦ハンドルやスタンションなどの**構造物があると持ち手として掴んで楽に上がる**ことができます。

◎もし、救命梯子を登れなかったら・・・

女性や年配の方で「体力もないし、登れるかどうか不安・・・」という方もおられるかと思います。万が一、船から海に落ちてしまい、救命梯子を使っても船の上に出ることが出来なかった場合でも、救命梯子が船に取り付けてあれば、

◎救助を待つまでの間の**体力温存**になる

◎片手が空けば**携帯電話で救助を求める**ことができる

◎船と一緒にいれば**捜索時早期発見**につながる

等の効果が期待できます。

「掴まることが出来るだけでも救命梯子は十分有効」

であると考えます。海上保安庁で推進している

「自己救命策3つの基本」

と併せて「救命梯子」を有効に活用しましょう。

自己救命策**3つ**の基本

1. **ライフジャケット**の着用。～万が一海に落ちたとき、貴方の**浮力**になってくれます。
2. **携帯電話**を持とう。～携帯電話は**防水パック**に入れ、濡れても通話ができるようにしましょう。
3. 「**118番**」で助けを呼ぼう。～海のもしもは海上保安庁緊急ダイヤル**118番**へ

救命梯子に掴まって118番へ救助要請！！

防水パック入り携帯電話

